

各館開催講座のご案内

新潟県立近代美術館

TEL 0258-28-4111
長岡市千秋3丁目278-14
<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟県立万代島美術館

TEL 025-290-6655
新潟市中央区万代島5-1
朱鷺メッセ内 万代島ビル5階
<https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟市美術館

TEL 025-223-1622
新潟市中央区西大畑町5191-9
<http://www.ncam.jp/>

新潟市新津美術館

TEL 0250-25-1300
新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1
<http://www.city.niigata.lg.jp/nam/>

開催日時	講座名／講師	講座内容	会場、申込、定員など
6月3日(日)	美術家人生のターニングポイント！	開催中の所蔵品展「ターニングポイント！—人生、それぞれの“時”」に関連して、濱谷浩、佐藤哲三、宮芳平ら出品作家のターニングポイントと創作活動の関係を立体的にご紹介します。展覧会をより深く楽しむことができる内容です。	NICOプラザ会議室 (朱鷺メッセ内万代島ビル11階)
14:00～15:30	澤田 佳三 (新潟県立万代島美術館 学芸員)		無料/申込不要/60名
6月9日(土)	江口草玄の一世紀を辿る	書の革新を追い求めてきた柏崎出身の江口草玄氏のすべてを、これまで一世紀におよぶ生涯を辿りつつ、探ります。	新潟県立近代美術館 講堂
14:00～15:30	松矢 国憲 (新潟県立近代美術館 学芸員)		無料/申込不要/165名
6月9日(土)	開館15年記念トークセッション I バンビ、15年の歩み II それぞれのターニングポイント！～学芸員編	新潟県立、新潟市立の美術館4館のネットワーク「NIIGATAアートリンク」の共催イベントです。各館のベテラン学芸員が2つのテーマで語ります。所蔵品展「ターニングポイント！—人生、それぞれの“時”」の会場内で行います。	新潟県立万代島美術館 展示室
14:00～15:30	荒井 直美 (新潟市美術館 学芸員) 大森 慎子 (新潟市 学芸員) 藤田 裕彦 (新潟県立近代美術館 学芸員) 桐原 浩 (新潟県立万代島美術館 学芸員)		要観覧券/申込不要/定員なし
6月16日(土)	近代美術館 名品あれこれ 〈日本編〉	コレクション展「近代美術館の名品〈日本編〉」(会期：5月24日～7月1日)の開催にあわせた講座です。近代美術館が所蔵する日本近代美術の名品をとりあげ、クイズを交えながら、その秘められたエピソードについてお話しします。	新潟県立近代美術館 講堂
14:00～15:30	長嶋 圭哉 (新潟県立万代島美術館 学芸員)		無料/申込不要/165名
6月23日(土)	近代美術館 名品あれこれ 〈海外編〉	日本美術に多大な影響を与えたバルビゾン派や印象派の作品。反対に、日本美術から多大な影響を受けたドニ、ランソンらナビ派の作品。これらの名品を所蔵する近代美術館の西洋美術コレクションを通して、日本とヨーロッパの芸術家たちの“交差するまなざし”を探ります。	新潟県立近代美術館 講堂
14:00～15:30	松本 奈穂子 (新潟県立近代美術館 学芸員)		無料/申込不要/165名
7月21日(土)	日本写真史の一系譜 阿部展也、大辻清司、 牛腸茂雄	画家としての業績のみならず、日本の写真史においても見過ごせない足跡を残した阿部展也。彼が戦前に取り組んだ「前衛写真」は、戦後に登場した大辻清司に強い感化を与え、さらに大辻の門下から牛腸茂雄が輩出されました。太い影響関係の連鎖でつながる三人を軸に、知られざる写真史の系譜を辿ります。	新潟市美術館 2階講堂
14:00～15:30	松沢 寿重 (新潟市美術館 学芸員)		無料/申込不要/100名
8月12日(日)	漫画家いがらしみきおの 世界～『ぼのぼの』から新 作まで～	いがらしみきお(1955-)の代表作『ぼのぼの』は、愛らしいキャラクターが織りなす作品世界で幅広い世代に人気を博しています。一方でいがらしは、シリアスな人間ドラマや土俗的要素の強いホラー漫画も描き続けてきました。いがらし作品に通底するキーワードから、「哲学的」とも言われるその魅力に迫ります。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
14:00～15:30	大野 智世 (新潟市新津美術館 学芸員)		無料/申込不要/60名

新潟市美	8月18日(土)	エンコースティックと阿部展也	五泉市出身の画家・阿部展也(1913-71)は、1959年から67年まで、顔料と蜜蝋などを加熱しながら画面に定着させる技法・エンコースティックを用いて多彩な作品を制作しました。西洋古典古代の絵画技法を、なぜ阿部はこの8年間だけ採用したのか。同時代の他作家の事例も交えて、その特色をご紹介します。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00~15:30	上池 仁子(新潟市美術館 学芸員)		無料/申込不要/100名
新津美	10月21日(日)	京都を彩った日本画家たち	明治以降、京都では優れた多くの画家たちが、文展、帝展、国画創作協会などを中心に活躍しました。近代日本画に足跡を残した竹内栖鳳、上村松園、土田麦僊、榊原紫峰などの作品を紹介しながら、「京都の日本画」について考えてみます。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30~15:00	横山 秀樹(新潟市新津美術館 館長)		無料/申込不要/60名
新津美	11月4日(日)	工芸にみる動物たち~こめられた想い、メッセージ...~	工芸の世界では、動物たちが数多く登場します。モチーフとなった動物たちは、そのかたちや習性からさまざまな願いや祈り等が込められてきました。どんな動物たちが登場し、どんな想い、メッセージが込められてきたか。佐渡市出身の佐々木象堂(1882-1961)の金工作品をはじめ、個性豊かで魅力あふれる工芸作品をご紹介します。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30~15:00	奥村 真名美(新潟市新津美術館 学芸員)		無料/申込不要/60名
新潟市美	11月17日(土)	ピカソの恋人 —描かれたミューズたち	20世紀初頭、目まぐるしく動いた時代に自身も変幻自在にスタイルを変えていったピカソ。その影には女性たちの姿がありました。妻、恋人はたまた三角関係、ピカソを取り巻く女性たちは、彼にインスピレーションを与える女神(ミューズ)でもあったのです。恋多き人生とその画業をたどりま	新潟市美術館 2階講堂
	14:00~15:30	荒井 直美(新潟市美術館 学芸員)	す。	無料/申込不要/100名
新潟市美	12月15日(土)	ピカソとロシア	20世紀の初め、革命前のロシアでは、ピカソやマチスの革新的な芸術にいち早く反応したコレクターや芸術家がありました。のちにロシア・アヴァンギャルドと呼ばれる大きな動きを生み出していききっかけとなった、ピカソとロシアのつながりをご紹介します。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00~15:30	前山 裕司(新潟市美術館 館長)		無料/申込不要/100名
新潟市美	1月19日(土)	ウィリアム・モリスと19世紀後半のイギリスの暮らし	ウィリアム・モリス(1834-96)がデザインした草花がモチーフの甘美な壁紙やテキスタイルは、今日でも世界のベストセラー商品です。しかし、彼がそうした製品を通じ「素敵なくらし」を描かなければならなかったのは、「そうでない現実」が英国社会に蔓延していたから。時代背景からモリスの意義を見つめます。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00~15:30	星野 立子(新潟市美術館 学芸員)		無料/申込不要/100名
新潟市美	2月16日(土)	イタリア・マニエリスムと芸術家列伝	これぞ美術史のマイナージャンル!?!ルネサンスとバロックの間には「マニエリスム」という美術様式の時代がありました。今から500年前にヨーロッパを賑わせた、ちょっと不思議でヘンテコリン、個性豊かな芸術家たちの作品とその人生にまつわる物語をご紹介します。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00~15:30	児矢野 あゆみ(新潟市美術館 学芸員)		無料/申込不要/100名
万代島美	1~2月に開催 予定	大正・昭和初期の日本画— 国画創作協会を中心に(仮)	大正7年、既存の日本画壇に異を唱えた土田麦僊ら新進気鋭の画家達によって「国画創作協会(国展)」が結成され、数々の名作、話題作が生み出されました。大正から昭和初期にかけては近代日本画が大きく変化した時期。当時描かれた多様な作品の魅力について、国展を中心にお話しします。※「国画創作協会の全貌展」会期中(1月4日~2月17日)に開催予定。詳細は展覧会チラシをご覧ください	未定
	14:00~15:30	池田 珠緒(新潟県立万代島美術館 学芸員)		無料/申込不要/未定
新津美	3月3日(日)	エドワード・ゴリーの 不思議な世界	子供も大人も夢中になる絵本作家、エドワード・ゴリー(1925-2000)。その世界観は様々な「不思議」に満ちています。驚くほど緻密なモノクロの挿絵や、グロテスクな物語を軽快なリズムで紡ぐ彼の作風は、多くの読者に「不気味」「怖い」と評されてきました。ゴリーがインタビューで語ってきた言葉を引用しながら、作品の魅力に迫ります。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30~15:00	斎藤 未希(新潟市新津美術館 学芸員)		無料/申込不要/60名
新潟市美	3月16日(土)	世間を騒がせた画家たち	藤田嗣治(1886-1968)や東郷青児(1897-1978)、岡本太郎(1911-1996)は広く一般の話題をさらった文化的スターでした。彼らのような存在は、今の美術界にはいないかもしれません。戦後日本の文化史・風俗史を彩った画家たちの逸話を通じて、世の中と美術との関わりを考えてみます。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00~15:30	藤井 素彦(新潟市美術館 学芸員)		無料/申込不要/100名